

千葉県中核地域生活支援センターニュースレター

ちばの地域福祉

「生き生きとした生活」

医療法人社団 啓友会 理事長 阿部 啓次郎

当法人は、平成16年10月より習志野圏域において中核地域生活支援センター(なかまネット)で活動しています。

生活のしづらさを抱えている地域住民の話を伺い、相談者を中心として関係していく機関と連携しながら、少しでも相談前より生活しやすくなれば良いと願い、取り組むことが、私たち中核地域生活支援センターの仕事と言えます。

私たちの生活には、各種類の法律の元、様々な相談機関があります。各相談窓口からこぼれる方達、繋がれていない方達の相談に対して東奔西走しながら、申請支援・関係機関やサービスに繋ぎなおす等、他職種の方々の協力のもとに、各地域で、相談業務をこなしてきた8年間だったと思います。

そのような中で、私自身、基本的な将来の福祉像とは、やはり、地域社会で仕事や日中活動できる場所等、それぞれ居場所をつくりながら、個々に親や兄弟から自立・自律した生活が送れる社会にしていく事になるのではと考えます。

しかし現状は、親兄弟に依存して生活している方、1人で抱え込んで相談せずに社会から隔絶孤立して生活している方、まわりの人達は困窮に気付いても知らぬ振りの社会・・・中々改善するにはほど遠いと言えます。

障がいがあり障がい年金生活、年をとったから老齢年金生活のみでなく、生き生きと社会や地域と結びつきながら生活できることこそが、豊かな社会なのではと思います。

この大切な結び付き社会の1つの案として、最近思うことは、財政の支援の中で清掃業務・公園道路清掃等への業務委託であり、委託企業で年金生活者、障がい者、生活保護者など採用されるようなシステムとなり、それらの方々の雇用企業の大規模減税、非雇用企業への懲罰的な累進課税ではないかと、考えるこの頃です・・・やはり私も総理大臣に？否、厚生労働大臣にならないと目指す福祉国家像は夢とはかなく消え行く運命なのかな・・・(笑)

いえいえ、今後も千葉県民が生き生きと地域参加できるシステムが構築されることを望みます。

『多様性を受けとめる地域に』

浦安市健康福祉部社会福祉課 保護係長 梅澤 岳さん

浦安市には、人口16万2千人、7万2千世帯の方が生活しています(平成24年9月末現在)。そのうち、生活保護を受給されているのは915世帯、1,294名、保護率は7.96%です。全国的な傾向ですが、保護世帯は増加しています。

なかでも稼働年齢層が増えて高齢者世帯の割合が減っており、背景には不況などの影響が大きいと考えられます。浦安市は大規模テーマパークがある街というイメージが強く、そのイメージに憧れて上京した若者が現実のなかで挫折して生活に困窮して相談に来るといった例もあります。詳しくお話を伺うと、実家の親から援助を受けられないことはないが親には相談できない、という方も少なくありません。また、同居家族がいるのに高齢の親だけが困窮して「子どもにお金がないことを言えない」と相談に来所し、ケースワーカーが間に入って親の状況を子どもに伝えることで状況が改善した例もありました。家族間の関係がこじれてしまったり関係が希薄になっているのを感じるとともに、「貧困」が見えにくくなっているとも思います。

生活保護のケースワーカーは、20代から40代まで10名の体制で、フットワーク良く動くことをモットーに日々、奮闘しています。生活保護制度の運用にあたっては経済的給付いわゆる「金をかける」ケースワークももちろん重要ですが、それ以外の「手をかける」ケースワークが重要であると考えています。私たちのこうした姿勢は、クライアントや関係機関との信頼関係構築という点で一定の成果をあげているものと評価していますが、昨今の受給世帯の増加によって「手をかける」ケースワークができにくくなるという危惧も感じています。

浦安市は、昨年3月の東日本大震災で市域の86%が液状化するという甚大な被害を受けました。その結果、身近な地域の中で支え合う地域福祉の気運が高まっているように感じています。また浦安では今年、四年に一度の「浦安三社祭り」が開催されました。大正時代から行われていたようですが、漁師町の気性によるものかあまりに荒れることが多く、一時期、中止されていたこともありました。昭和49年に復活して、回を重ねるごとに盛り上がりを見せています。いろいろな人たちが集まってみんなで一つのことを成し遂げることで関わりが生まれ、広がることを実感しています。

震災や祭りをはじめとする地域の行事を契機に、地域は様々な人々の集まりであることが住民相互のなかで実感されました。浦安が多様性を受けとめる地域として発展していくことを願っています。(談)

ちば・元気印！～こんなひと、見つけた～

元吉栄一さん

夷隅の障害児者のくらしを考えるいすみの会

今年3月12日、いすみ市と夷隅特別支援学校(渡部勉校長)の間で同校を災害発生時の「福祉避難所」に指定する協定が結ばれました。

元吉栄一さんは夷隅特別支援学校のPTA会長でもあり、ニュースや新聞記事を見ては自閉症や知的障害児者が避難先で生活することがどれほど困難なことかと考えていた1人でした。

夷隅地域には「夷隅地域づくりネットワーク」(地域の福祉関係者や関心のある方が集まり共に地域の福祉について考えあう会。2006年から)があります。具体的な活動に「いすみ市の福祉を語り合う会」があり、3年前から市長、市役所職員と共に年三回ほど語り合う会を設けています。昨年度は、東日本大震災を受け地域の防災について語り合いました。

そこにはいすみ市長と、渡部校長と、元吉さんがいました。その後この三者が柱となり熱心に取り組みが進められた結果、「福祉避難所」に関する協定が結ばれたのです。

元吉さんは障害児の親の立場で必要性を伝え、渡部校長も、保護者の不安や戸惑いを感じていたのでPTA役員会や同窓会の総会に取り上げ、また、いすみ市長も在校生や卒業生のことを考えれば市内にあることがよいと考えていました。

元吉さんは、「夷隅地域の障害者や家族が安心を手に入れることができた」と話されます。

協定締結後の今は、「開かれた学校づくり委員会」において議論が続けられています。要援護者の実態把握や避難所の運営組織の確立などが検討課題になっています。また、「いすみ市の福祉を語り合う会」の障害部会座長としても、地域の福祉力向上の先導役として、元吉さんにはますますご活躍いただきます。

おまけ

元吉さんの更なる元気印！！

その 人形劇団伝伝虫(団長)



* 右から二人目が元吉さん *

その 劇団いすみキッズ<ミュージカル>(代表)



問い合わせ先 080-1308-7034(携帯)



ちば・地域発 ～県内ア・ラ・カルト～

障害を持つ人を対象にした交流イベント

第6回出合い・ふれあいの場 Saturday fever party

- [内 容]** 障害を負っていることで、外出することや他人と親密なコミュニケーションを図ることにハンデを抱え、その前段階である恋人や友人をつくることに苦労している現状があります。そこで、おもに障害を抱える方を対象に出会いの場を提供することで、恋人や異性・同性の友人をつくってもらい、日常生活に潤いを取り入れるとともに社会参加促進のきっかけをつくることを目的にパーティーを開催いたします。
- [日 時]** 平成24年12月8日(土) 13:00～16:30 (12:30～受付開始)
- [会 場]** 茜浜ホール 千葉県習志野市茜浜2-7-2
- [参加資格]** 障害者もしくは健常者の独身の方で自己責任を負える20歳～40歳代の方
- [定 員]** 男性25名 女性25名 **[参加費]** 男性5,000円 女性2,000円 付添者500円
- [申込方法]** 氏名・住所・年齢・性別・電話番号・障害程度等を事務局までネット、Fax、電子メールまたは郵送でお申し込みください
- [問合せ]** 障害者の出合いの場 in 船橋実行委員会 高齢者・障害者支援センターりんかむ内
〒273-0012 千葉県船橋市浜町1-5-3-117-1
: 047-432-2468 Fax: 047-432-2469
E-mail: rincome@ace.odn.ne.jp URL: http://www.geocities.jp/barrier_free_party/

犯罪被害者週間 「千葉県民のつどい」

- [内 容]** 「犯罪被害者週間」とは、犯罪被害者等(犯罪や交通事故に遭われた方・その家族・遺族)が置かれている状況、犯罪被害者等の名誉又は生活の平穏への配慮の重要性等について日本国民の理解を深めるための啓発事業を集中的に実施する週間です。「千葉県民のつどい」にご参加いただき、<犯罪被害者への深い思いと被害者支援への強い思い>について、ご理解とご協力をお願いいたします。
- [主な内容]** 基調講演「犯罪被害者支援について」 講師：山上皓氏
PANSAKU トーク&ライブ「性犯罪被害者の声を聴く」
- [日 時]** 平成24年11月18日(日) 13:00～16:00 (12:00～受付開始)
- [場 所]** 柏市民文化会館 千葉県柏市柏下107番地
- [申込方法]** 郵便番号・住所・氏名・電話番号・人数を書いて郵送、Fax、Eメール、電話で申し込み
- [参加費]** 入場無料 当日入場可(事前申込者優先)
- [申込締切]** 平成24年11月12日(月)
- [申込・問合わせ]** 千葉県生活・交通安全課 〒266-8667 千葉県千葉市中央区市場町1-1
: 043-223-2333 Fax: 043-221-2969
E-mail: anzen@mz.pref.chiba.lg.jp

発行元：千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会

事務局：海匠ネットワーク(海匠圏域) 旭市イの1775

TEL:0479-60-2578

FAX:0479-60-2579

編集：いちほら福祉ネット(市原圏域)市原市東国分寺台3-10-15 TEL:0436-23-5300

FAX:0436-23-5225

内容についてのお問い合わせは、いちほら福祉ネット(担当：高地)までお願いします。